

【イベント案内】

県立陣馬自然公園センター

- 写真展
「第2回神奈川県立陣馬相模湖自然公園の写真展」
内容：一般の方が陣馬相模湖自然公園内で撮影し、ご応募いただいた写真を展示しています。自然公園の素晴らしさ・撮影した方の想いを感じていただければ幸いです。
展示期間：平成23年10月1日(土)～平成24年1月31日(火) 休館日にご注意ください。

県立秦野ビジターセンター

- 企画展『岩石と化石からみた丹沢の生い立ち』
内容：秦野盆地を流れる水無川は、表丹沢のいくつもの峰を源流としています。この川の水が語る丹沢山地の驚きの生い立ちを展示でご紹介します。
開催期間：平成23年10月1日(土)～平成24年1月9日(月・祝)
- 自然教室『丹沢からのメッセージ～水無川の石ころ実物図鑑づくり～』
内容：川の水が語る丹沢山地の驚きの生い立ちを野外観察や図鑑づくりを通して探ります。
日時：平成23年11月26日(土) 9:30～16:00頃
場所：秦野ビジターセンターとその周辺
対象：小学5年生以上 ※小学生は保護者同伴
定員：30名 ※応募者多数は抽選
締切：平成23年11月15日(火)
参加費：1人1,700円(保険代、材料費込み)
申込み：往復はがきに行事名・参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号を記入の上、締切日必着で秦野ビジターセンターまで。
【展示協力・自然教室講師】
門田 真人氏
(神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員 神奈川地学会 会長)

環境省箱根ビジターセンター

- 自然教室「秋の箱根を歩く」
内容：紅葉のきれいな箱根最高峰の山「神山」をいっしょに歩きますか？
実施日：平成23年11月12日(土)
締切り：平成23年11月5日(土)
申込み：参加希望者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記載の上、箱根ビジターセンターまで往復はがき、もしくはメールにて。

丹沢大山自然再生委員会

- 自然再生シンポジウム～見えてきた丹沢再生～
内容：丹沢の自然環境の保全・再生に取組む、丹沢を知り抜いた人々からの活動報告や意見交換を行います。ぜひご参加ください！
実施日：平成23年10月30日(日)
時間：13:00～17:00
場所：かながわ労働プラザ(横浜市中区)
募集人数：280名
参加費：無料
締切：平成23年10月20日(木)
申込み：ホームページ申込みフォームまたはFAX(046-248-0737)に行事名・住所・氏名・返信用FAX番号・同行者を明記のうえ、丹沢大山自然再生委員会まで。
ホームページアドレス
(<http://www.tanzawasaisei.jp/>)

自然の中は
ふしぎがいっぱい



2011
10月号
No.92

～自然公園から季節のたよりをお届けします～
神奈川県自然公園だより

丹沢大山国定公園 県立丹沢大山自然公園 県立陣馬相模湖自然公園 富士箱根伊豆国立公園

箱根のススキが海開き

箱根ビジターセンター



箱根名物 ススキ草原

箱根仙石原高原のススキ草原といえば、「かながわの景勝50選」にも選ばれてる全国的に有名な箱根名物スポットの1つです。毎年、仙石原のススキ草原は9月下旬～11月上旬にかけて見頃を迎え、たくさんの方々で賑わいます。

9月下旬、ススキの穂が開き始めます。開いた穂は、草原一面を白銀色に染め上げ、有名なススキの白い大草原を作り上げていきます。

そして10月になると一番の見頃を迎えます。ススキは来年の芽吹きのために、草原に吹く風の力を借りて穂を逆一面に飛ばします。その時、風が吹く度に「サササー・・・」と、ずっと聞いていたくなるようなBGMを奏でながら草原全体が揺れます。この風景こそ、ススキ草原の最も美しい姿だと思います。舞い散る白い穂は、さながら「粉雪」のよう。風に揺れる草原は「白銀色の大海原」。そして時には、綺麗な夕日を浴びて「黄金色に輝く大海原」に姿を変えます。その景勝はまさに幻想的・・・そこにたずみ、ゆったりと過ごす時間は贅沢なひとときです。(加藤)



ススキの穂

自然公園へ出かけよう



休館日のお知らせ
県立ビジターセンター：月曜日(祝日開館)、祝日翌日(土日開館)
1～3月第2水曜日(祝日開館)
年末年始(12/29～1/3)
箱根ビジターセンター：6月第2水曜日とその翌日、
年末年始(12/28～1/1)

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

〒243-0111 清川村宮ヶ瀬940-15
Tel046-288-1373 Fax046-288-1162
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/miyagase/>

県立秦野ビジターセンター

〒259-1304 秦野市堀山下1513
Tel0463-87-9300 Fax0463-87-9311
開館時間 9:00～16:30(通年)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/hadanovc/>

県立陣馬自然公園センター

〒229-0201 相模原市緑区佐野川1659-3
Tel0426-87-5270 Fax0426-87-5270
開館時間 9:00～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/jinba-vc/>

県立丹沢湖ビジターセンター

〒258-0202 足柄上郡山北町玄倉515
Tel0465-78-3888 Fax0465-78-3777
開館時間 9:00～16:30
(1/4～2/28は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawokvc/>

県立西丹沢自然教室

〒258-0201 足柄上郡山北町中川1867-2-9
Tel0465-78-3940 Fax0465-78-3940
開館時間 8:30～16:30
(12/1～3/31は16:00閉館)
<http://www.kanagawa-park.or.jp/nishitanzawa/>

環境省箱根ビジターセンター

〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根日礼場164
Tel0460-84-9981
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
<http://www.mmjp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>

編集・発行：公益財団法人 神奈川県公園協会 〒231-0027 横浜市中区扇町3-8-8関内ファーストビル6階
TEL: 045-651-0931 FAX: 045-651-0932
公園課(自然公園担当): sizenkouen@kanagawa-park.or.jp ホームページ <http://www.kanagawa-park.or.jp/>
後援：丹沢大山自然再生委員会

神奈川県公園協会

検索

陣馬山で花を見ながらダイエット 陣馬自然公園センター

『……の秋』と言われるように、人それぞれの秋があると思います。

特に『食欲の秋』でちょっと体重が気になる方は、ぜひ『登山の秋』として陣馬山周辺の自然に触れてみましょう。

ダイエット効果があるだけでなく、出迎える多くの草花が疲れた心を癒してくれます。心身ともにスッキリとした登山の後は『食欲の秋』になってしまいますが…。



昨年の展示風景

当センターでは「第2回 神奈川県立陣馬相模湖自然公園の写真展」を平成23年10月1日(土)～平成24年1月31日(火)まで開催しております。

陣馬山を中心に訪れる方はリピーターも多く、四季を通して自分だけのお気に入りの場所や登山コースがあります。中には「母なる山」だと話す方もいられます。

そうした方々が撮影した、想いのこもった一枚が展示されていますので、ぜひセンターに写真を見に来ていただき、自然の素晴らしさや撮った方の想いを感じ取って下さい。(清水)

フィナーレを飾る花 宮ヶ瀬ビジターセンター

10月 丹沢は秋深くなり、早春から続けてきた花の観察は、いよいよフィナーレを迎えます。

私にとって、秋の終わりを告げる花といえば、センブリやリンドウです。葉っぱをかんでみると苦〜いセンブリに、ソフトクリームのようなつぼみのリンドウ。どちらもリンドウの仲間(リンドウ科)で、登山道脇などでよく見られます。

不思議なことと同じ仲間(リンドウ科)でも好みの気候があるようで、春にはフデリンドウやコケリンドウが咲き、秋にはセンブリやリンドウ、ツルリンドウなどが開花します。

花の個性にも色々ありますが、春めく暖かさを感じて山麓から山の上へ向かって次々と開花していく春の花と違い、秋の花は先に涼しくなる山の上から山麓へと下りながら花開くことが多いように感じます。

みなさんは今年の花のシーズン、どんな花で見納めますか？(酒井)



不思議な生きもの 変形菌 丹沢湖ビジターセンター

雨上がりの森に入ると足元にネバネバしたようなオレンジ色のものが落ち葉や枯れ枝に絡みつくようについてました。変形菌です。

変形菌はキノコのように胞子で増えます。胞子が発芽した後アメーバのような変形体になり、朽ち木や落ち葉の中を這い回り、バクテリアや菌類を食べて大きくなります。

子実体(キノコのように胞子を飛ばす時の形)になる時、落ち葉や朽ち木の中から風通しの良い表に移動し、ほぼ24時間かけて子実体になります。



普段は子実体になった後のものを見つけて観察できますが、希に雨上がりなどの湿度が高く落ち葉などが湿っている時に、子実体になるために這い出して来たのを見ることが出来ます。

写真の変形体(写真①)は観察していくとだんだん集まり(写真②)最後はキラボシカタホコリ(写真③)になりました。この変形菌は顕微鏡で観察すると表面に黄色い星形の結晶があります。

変形菌は一年を通し、色々な種類が観察できますが、夏から秋にかけては色々な種類が多く見られます。

紅葉が美しい季節となりますが森を歩く時にはぜひ、足元の落ち葉にも目を向けてみて下さい。変形菌にも出会うかもしれません。(木村)



⑦ホソエノヌカホコリ

秋めく丹沢の『緑』 秦野ビジターセンター

紅葉シーズンも近づきつつある10月の丹沢。心地いい秋晴れ日の日には、紅葉を期待してついつい山並みを眺めてしまいます。そんな時に目に入るのが、紅葉とは反対に深い緑色のままの林です。

スギやヒノキなどの葉を落とさない常緑樹で構成されたこれらの林は、高度経済成長期に木材の生産を目的として植えられた樹木が成長したものです。人間との関わりが深い丹沢には、自然に育ってきた森ばかりでなく人の手によって造られた林、人工林も広く存在しています。

この人工林は、植えた木を間引き(間伐)、枝の本数を減らす(枝打ち)などの管理を行わなければ、暗い林となり森林としての機能を失ってしまいます。しかし現在、樹木一本当たりのお値段はおおよそ3,000円(※)で、全盛期の4分の1近くまで下落してしまっただめに、利益を見込めず管理を放棄されている人工林も表丹沢を歩いていると多くみられます。

秋晴れの丹沢の見なれた眺めには、こんな問題が潜んでいます。(那須)

※農林水産省のデータをもとに、スギの丸太として計算。



放棄された人工林。ここまで来ると木材としても価値が大変低くなってしまいます。



紅葉がすすんだ11月終りの丹沢山景